

2019年10月にスタートした小山町でのリノベーションまちづくり。

きっかけは、小山町が主催したリノベーションまちづくりの講演会でした。

ゲストは静岡県のリノベーションまちづくりを牽引する熱海の株式会社 machimori 代表取締役の市来広一郎さん。

当日はまちづくりに関心のある30代~40代の若者を中心に、100名近い方々が集まりました。

この講演会を企画したのは、小山町未来創造部未来拠点課 公民連携推進室の滝口覚郎さん。

小山町出身の滝口さんは、まちづくりへの思いから3年前に金融機関から小山町役場に転職しました。

企業誘致、移住促進の担当部署を経て、公民連携推進室でリノベーションまちづくりの担当をしています。



▲滝口覚郎（たきぐち かくろう）さん

実は、人口約18,000人の小山町にはカフェや居酒屋等の飲食店がほとんどなく、近くの御殿場市に人が流れていくという状況です。

まさに「人の交流を生み出す場所」がない。



▲小山町役場前の町並み

このことは、まち中で人と人との繋がりを生み出しながら、「まち」の個性を表現していく中では致命的なことでした。まずは、このまちを主体的に変えていこうとする人のパワーやつながりが必要だ。そんな思いが最初の講演会の企画に込められていました。

キックオフの講演会は1歩目としては十分な反響があり、それ以降も月に一度、ゲストを交えた定例のミーティングを重ねながら、まちのキーマンの掘り起こしや実際の事業を進めてきました。さらに、定例のミーティングとは別に、実際のアクションに結びつけていくための膝を突き合わせたミーティングを毎月重ねているそうです。

立場は行政職員でありながら、その範疇を超えて、時間と労力を惜しまず取り組んできた結果、主体性を持った仲間が集まり、現在は小山町のリノベーションまちづくりを推進する事業のスタートが間近に迫っています。

具体的に事業が動き出す。このことによって、それぞれのメンバーの具体的な役割やアクションが見えてくるようになったと言います。

現在、シェアオフィスまたは、ゲストハウスを作りたいという方や、古本を扱うカフェを運営したいという女性が小山町を舞台にじわじわと活動を始めているそうです。

また、滝口さん自身も物件をリノベーションし、移住する方や、法人に貸し出していくというプロジェクトに取り掛かっています。



▲ミーティング資料

一方で、町役場の近くの「豊門公園」が現在リニューアルを終え、来年度以降に公園敷地内にある西洋館や豊門会館（ともに国の登録有形文化財）の事業者の公募も開始する予定で、相乗効果を生み出していきそうです。



▲西洋館と豊門会館

行政職員という立場で最大限に動きながらリノベーションまちづくりのプレイヤーを下支えする。さらに立場を超えて自らもプレイヤーとして動いていく。

立場がどうであれ、滝口さんとその仲間の町に関わるその思いとアクションが、数年後の小山町の景色を変えていく気がしました。

（文・写真：一般社団法人 SACLABO）